

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 8月分 各業界からのコメント

◎建設業

- ・ウッドショックに便乗して値上げが連鎖している。
- ・変異株が拡大し当社及び顧客先に広まり、被害が現実化することが非常に心配である。
- ・当社のような零細企業は被害を受けた場合の復活は容易でないと考える。
- ・感染防止の基本を確実に励行し終息を待ち、感染しないように最善を尽くす。
- ・コロナウイルスの影響で工事が先送りとなっており、業績にも影響が出ている。
- ・雇用調整助成金を活用し採算は取れているものの、もうしばらくはこの状態が続くと思われる。
- ・オリンピックによる都心部の工事中断はほとんど見られない。
- ・コロナ第5波について、従来通り社内ではクラスターを発生させないよう警戒態勢を敷いており、特段の影響はない。
- ・引続き大手ゼネコンが入札工事の規模を引き下げつつあり、地方でも競争が激化しはじめている。
- ・少しずつではあるが受注状況も回復傾向が見え始めている。
- ・ただし、ここに来てコロナ感染者が急増している事で仕事にも歯止めがかかる可能性もあり、予断を許さない状況が続く。

◎製造業

- ・相変わらず鋼材を中心に資機材価格が上昇。
- ・納期間近の品物が多くある。資材不足の影響で工程管理や客先への説明に気を使う状況。
- ・製造向け機器・部品等の仕入納期が時間のかかるものが増えてきており、同時に値上げ含みの話が急増し、この先大変心配である。
- ・一部製造業に動きは出てきているが、依然として大きな動きはない。材料費（鉄・ステンレス）は高騰・品薄状態が続いており、厳しい状況に変わりはない。
- ・今後、原材料、原油価格の高騰が懸念される。コロナ感染拡大で経済への影響がさらに悪化するのではないかと不安である。

◎卸売業

- ・公共事業の発注が低調。
- ・コロナにより巣ごもり消費者の動向に変化が出てきた。
- ・オリンピック後はもっと早く変化すると思う。
- ・台風等の影響もなく順調な出荷となっているが、依然として業務用の需要は低迷しており、今後の回復も期待できない。
- ・前年度発注工事の工期延伸のため、6、7月は受注増となった。
- ・原材料の高騰がとまらない。新型コロナウイルスによる影響で需要と供給のバランスが崩れたことにより、国内在庫が底をつく。

◎小売業

- ・売上、業況については前年と同じであるが、2019年と比較すると3割程減少。
- ・県境を越える移動は自粛していただきたい。
- ・コロナと共存していく知恵を出すことが求められる。
- ・昨年は緊急事態宣言明け後、9月まで本格的に営業体制が取れなかった。反面、本年9月までは対前年比で上向き傾向である。
- ・デルタ株による感染が県内においても拡大してきている中、まだ予断は許さない状況。
- ・オリンピックによる影響は、そこまで感じないものの、県を跨ぐ移動が自粛される中でのお盆期間は苦戦が予想される。
- ・新型コロナウイルス拡大の影響で売上が減少。
- ・地域のお店応援商品券の効果で売上は前年並みに回復。
- ・新型コロナの感染者数が増えており、緊急事態宣言が発令されると売上の伸びは考えがたい状態。やはりイベントが開催できないと苦しい。
- ・当店はさらに来店客が減ることを見込んで、ネット販売が出来るようにECサイトを準備中。

◎サービス業

- ・コロナによりイベントが減少。
- ・例年の夏イベントがほとんど中止されているため、業績は上昇の目途が立たない。
- ・新型コロナウイルスによる影響はまだ大きく、新潟まつりをはじめとするイベントが今年も見送りになったものが多く、宴会などの看板も非常に少ない。
- ・ここへきてコロナウイルスの感染が再拡大してきており、一時期落ち着いてきたイベントの縮小や延期が再発傾向にあり、秋の繁忙期に影響がでくると予想される。業績回復にはまだまだ時間がかかるのではないかと。
- ・職域接種によりワクチン接種が一気に進んだが、副反応がほぼ全員に発現し、一時的な影響が懸念される。
- ・ワクチン接種が進む一方、感染者数は増えているため、今後の見通しが難しい。
- ・ワクチン接種が広がり経済活動が好転することを期待したが、ワクチン不足とコロナ感染者の拡大傾向が進み先行きの経済見通しは厳しく、経営環境は相変わらず厳しい状態が続いている。
- ・オリンピック、パラリンピック、そしてワクチン接種が進むなか、国民の新型コロナへの危機感が低くなっていると思われ、人流は増加傾向にあり県外からの観光客や出張者が増えてきている。
- ・オリンピック、パラリンピック、お盆と新型コロナウイルスによる感染がどこまで広がっていくのか不安ばかり。職場でクラスターが出たらなどと思うと、早く積極的にワクチン接種をして少しでも感染を防いでほしいと思う。
- ・オリンピックは開催されているが、無観客のためお金が動かず、地方の経済にも厳しい状況が続くと思われる。
- ・五輪開催中は自宅での観戦者人口が多いが、終了と共に外出人口が増えることが想定され、事業への貢献度が望める一方、再度の感染者拡大が気になる。
- ・前年同期比では若干改善傾向にあるが、2年前との比較ではいまだに60%に到達していない。
- ・国や自治体による助成金などを受けられているうちは凌げるが、その間に最賃見直しがあることから焼け石に水状態になることが考えられる。

- ・前年度は持続化給付金で維持できたが、今後首都4県に緊急事態宣言が発令されるとさらに打撃を受ける。
- ・土地の売買ニーズは増加傾向にあり期待できそう。
- ・顧客である中小金属加工業の景気が多少ではあるが回復しているのを実感している。
- ・賃金不払いや、解雇に繋がった場合は助成金が受けられないため、倒産が待ち構えている。
- ・この状態がいつまで続くのか不安にはなるが、今できることを探し内容にこだわらず状況が改善するまで持続を目指すだけ。
- ・土日は競馬開催があるため動きはあるが、平日の夜は全く人流がない。
- ・物量は徐々に回復傾向であるが、原油価格の高騰により軽油単価の高止まりが長期化している。
- ・タクシー会社である私達には歓迎の方向へ進み始めていたが、7月30日現在感染拡大に伴う人流停止方向に政府や行政も舵を切る方向になると思われ、またまたブレーキ傾向になるのでは？と心配である。
- ・4連休後はコロナ感染者も増加し、新潟市内には県外ナンバーの車が沢山走っていた。
- ・外出制限が出てしまうとサービス業には打撃が大きい。
- ・商談はあるものの規模が小さく、発注元の慎重さが伺える。
- ・新型コロナウイルス感染再拡大により経済停滞のダメージが感じられる。